令和７年度　学校自己評価システムシート（県立川口北高等学校）

目指す学校像	文武両道の精神のもと、高い志と品格を備えた未来を拓くグローバルリーダーを育成する学校

重点目標	１　自ら勉学に真摯に取り組む姿勢により学力の向上を図る。 ２　満足度の高い生徒全員の進路希望の実現を図る。 ３　文武両道の校風を堅持し、学業及び体力、精神力の充実を図る。 ４　グローバル社会に対応し、国際社会に目を向けた教育を推進する。

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、
最終回の学校評価懇話会を
開催し、学校自己評価を踏まえて
評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（　月　日　現在）			実施日　令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 ICT の活用は日常化しており、生徒、教員ともに iPad を授業だけでなく、様々な場面で活用している。また、ICT を活用して文理融合や教科横断的な授業の実践も見られる。電子黒板も導入され、その効果的な活用についての研究も進めている。「主体的に学習に取り組む態度」の評価に関して各教科で研究している。 【課題】 ICT の効果的な活用方法について、生徒の学力向上にどのように役立てていくのかを引き続き研究するとともに、DX 化推進とアクティブラーニングを融合した授業、教科横断型授業、探究的な学びや文理融合型授業などの「新しい学び」を研究・実践することが課題である。また、観点別評価の「主体的に学習に取り組む態度」の評価についての研究成果を踏まえて、生徒の主体的・能動的な学びを促す取組の実践の構築や教員間での認識の共有が課題である。	○教員と生徒のICT活用環境をより充実させる ○「新しい学び」を実現するための授業改善」に関する取組を実践する ○観点別評価「主体的に学習に取り組む態度」についての評価を踏まえた生徒の主体的・能動的な学びを促す	①教員がICT機器を活用して、授業や情報伝達、各種調査等を行う ②授業の相互観察や研究会を実施する ③観点別評価「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の研究を継続する	①授業等で活用できるように使用方法を伝えられたか。生徒が正しく ICT 機器を授業に役立てられたか ②授業改善に関する組織的かつ実践的研究を行えたか ③観点別評価「主体的に学習に取り組む態度」について適切に滞りなく行えたか				
2	【現状】 定期考査や長期休業前に学習計画を立て、生徒が計画的に学習できるよう促している。各種進路行事及び自学自習オリエンテーションを通じて、生徒の進路意識や学習意欲の向上を図っている。 生徒の実態に合わせた進路行事を実施して、学年集会等で学習意欲の向上を図る講演を実施している。 【課題】 本校学習状況調査、授業評価、外部測定ツールの分析に基づき、主体的な学習者の育成を一層推進していくための効果的な指導を研究、実践していく必要がある。また、生徒の学習意欲を維持、向上させるために、細やかな生徒の進路希望状況の把握や保護者への進路情報の発信、情報共有の機会等を確保し、その内容の充実をしていくことが必要である。	○主体的な学習者を育てる ○生徒の学習意欲を向上させる ○保護者への進路情報の発信・共有する	①定期考査前や長期休業中の学習計画・振り返りを働きかける ②進路行事や自学自習オリエンテーションを工夫・改善する ③進路講演会の実施に際し、保護者の関心の高い事柄について実施する。また、保護者の要望に合わせた教育視察を実施する	①定期考査前や長期休業の学習計画作成の働きかけの回数 ②意欲向上のための進路行事・集会の回数、自学自習オリエンテーションの改善内容 ③進路に関するＰＴＡ関係行事が実施できたか。進路に関するＰＴＡ関係行事に対する満足を与えることができたか				
3	【現状】 文武両道の精神のもと、真摯な態度で学習や部活動、学校行事など全てのことに全力で臨ませることを継続的に指導している。時間を守る等の生活規律の確立や交通マナーに関しての苦情については改善しているが無くなってはいない。 【課題】 生活規律の確立や交通マナーをはじめとした社会的な規範意識の育成は継続していく。自分自身の健康に関心を持ち、かつ心身の健康を維持しながら学習や部活動等に取り組むことができるような自己管理能力を持った生徒の育成が課題である。	○積極的な生徒指導を推進する ○安全指導を徹底する	①８時１５分登校の励行、授業時のチャイム着席の励行。制服の着こなし方など、生活規律の向上を目指す ②朝の登校指導、雨天時自転車傘さし運転防止、かっぱ着用などの交通マナーについての意識の向上を図る	①遅刻指導を受けた生徒数 ②全学年の年間遅刻総数 ②傘さし運転等の指導数、交通事故の件数、交通マナー等に関する近隣からの情報提供数、交通安全教室の実施				
4	【現状】 グローバル人材の育成を目指すとともに、総合的な探究の時間を有効に活用し、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力の育成に努めている。 【課題】 地域や中学校やフランクストン校との交流などの多様な他者との関りや協働をとおしてグローバルな視野を養い、自らの考えを積極的に発信できるようコミュニケーション能力を磨く必要がある。	○国際理解教育を推進し、グローバルな視野を持つ生徒の育成 ○主体的・能動的なコミュニケーション能力の高い生徒を育成する ○地域や中学校との交流の促進する	①フランクストン校との交流をとおして、多文化理解や国際理解教育の機会を設定する ①ＳＤＧｓなどをテーマとした探究活動を充実させる ②教養講演会を実施する ②全学年縦割りゼミ方式の総合的な探究の時間の実施し、生徒のコミュニケーション能力を高める ③地域や中学校、他校との交流の機会を設ける	①フランクストン校との交流が充実したものになったか ①世界に目を向けた生徒を育成できたか ②生徒が積極的に発信する機会が増えたか ③地域や中学校との交流数				